

入賞は3大金銀銅 6位 諏訪健闘

【アテネ二十九日共同】アテネ五輪最終日の二十九日、陸上男子マラソンで日本勢は油谷繁(中国電力)が2時間13分11秒で5位に、諏訪利成(日清食品)が2時間13分24秒で6

位に入賞した。国近友昭(エスビー食品)は41位。優勝はステファノ・バルディニ(イタリア)で2時間10分55秒だった。男子マラソンでの日本選手の入賞は、一九九二年バ

ルセロナ五輪銀メダルの森下広一以来、3大会ぶり。メダルには届かなかったが2人が入賞を果たした。20キロすぎから飛び出し、一時は独走態勢を築いたデリマが、36キロ付近

で一般観客に襲われるハプニング。失速したデリマに、バルディニが38キロ付近で追いつき、一気に抜き去った。予想された通り、32キロからの長い下りで繰り広げられた優勝争い。その中に日本勢の姿はなかった。

まず、国近が中間点を過ぎて脱落。諏訪は30キロ手前で離された。最後まで上位で踏ん張っていた油谷も「急にペースが上がって切り替えがうまくできなかった」。30キロを過ぎて徐々に遅れ始め、01年、03年の世界選手権に続く5位をキープするのが精いっぱいだった。

諏訪利成の話 自分の力を出し切れた。すぐくさいコースだった。力がまだ足りなかった。力がつけば大丈夫。下り坂も差が縮まると思って走っていた。もう一段、ランクを上げて挑戦したい。もっと強くなるので、次を期待してください。



男子マラソン 6位でゴールし声援に応える諏訪利成(日清食品)パナシナイコ競技場(共同)